

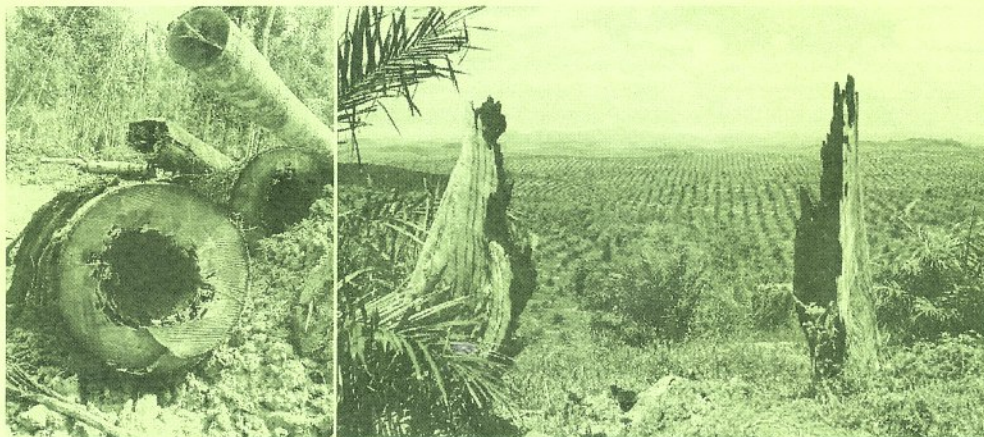
# 第20回日本熱帯生態学会年次大会 講演要旨集

Proceedings of the 20th Annual Meeting of the Japan  
Society of Tropical Ecology in Hiroshima 2010

---

## 公開シンポジウム

『途上国における森林減少・劣化に由来する  
温室効果ガスの排出削減 (REDD) と熱帯生態学』



---

2010年6月18日～20日  
広島大学 学士会館

日本熱帯生態学会  
The Japan Society of Tropical Ecology



インド・アルナーチャルプラデシュ州のチベット系住民の生業の特徴  
 安藤和雄 (京都大学東南アジア研究所)

1. はじめに インドの東北部、アッサム州の北にブータン、中国 (チベット地区)、ミャンマーと国境を接するアルナーチャルプラデシュ州の存在を知る人は少ない。私自身、2003年3月にアッサム州を訪問し、ロンドン大学のブラック・バーン教授に出会うまでは、アルナーチャルプラデシュ州は関心の外であり、知識さえももっていなかった。私の興味はアジアの犁農耕の伝播にあり、アパタニ族の無犁農耕を知らされ、アパタニ族の里であるジロの地を2005年3月にはじめて入った。アパタニ族の無犁農耕のルーツを探る目的で2005年9月にヒマラヤの北面であるチベット地区に調査にでかけ、チベット族の犁農耕に接した (結局はその地域は外国人の入域は規制されていて入れなかった)。その後、総合地球環境学研究所の「人の生老病死と高所環境—3大「高地文明」における医学生理・生態・文化的適応」(代表 奥宮清人 総合地球環境学研究所)への参加を契機に、チベット族もしくはチベット系の人々が育んできた高地文明という視点からアルナーチャルプラデシュに位置する東ヒマラヤ (カメング・ヒマラヤ) の高所に暮らす人々の伝統的な生業に関心をもち、2007年から年に2~3度、一回の調査期間が10日前後の調査を、アルナーチャルプラデシュ州のウエストカメング県のディラング郡で、継続している。本報告は、2009年12月3、4日に開催され、総合地球環境学研究所での国際セミナーでの発表 Kazuo Ando,

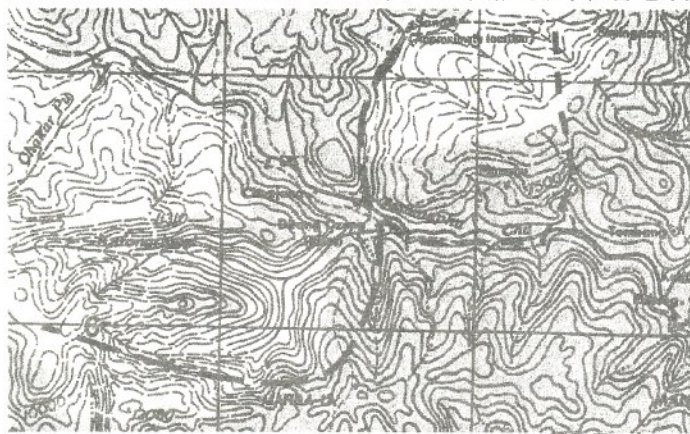


図1 調査地域の地形図 調査ルート  
 出所: <http://www.masterdynamics.com/aruachalmaps.html>

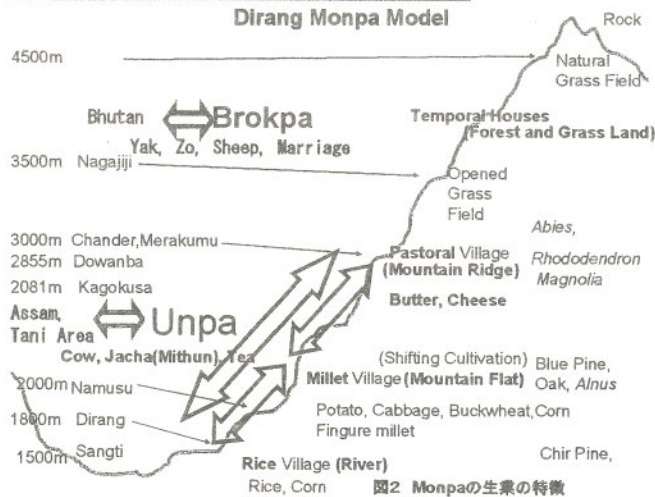


図2 Monpaの生業の特徴

Kawai Akinobu, Koichi Usami, Kazuharu Mizuno, Nobuhiro Ohnishi, Shinichi Miyamoto, yasuyuki Kosaka, Naoji Okuniya, Yasuko Ishimoto and Tetsuya Inamura, "Alternative Way of Development: Lessons from Arunachal Pradesh in India", The First High-Altitude Project International Conference; Global Environmental Issue in the Human Body-Disease and Aging Manifested by the Imbalance between High-Altitude Adaptation and Recent Life-Style Change-, December 4<sup>th</sup>, 2009, に基づき修正した。

2. 地域の概要と調査方法 ディラング郡を北西から南東に向かってディラング川 (図1では Thammaphu Chu) が流れ、支流が多くの谷をつくっている。チベット系の Monpa と呼ばれる民族が暮らしている。Monpa は、生業により、農耕の民である Unpa と牧畜民である Brokpa に別れている。ルートに沿って聞き取りを行った。

3. 結果と考察 Monpa の人々、特に若者の間では政府などの仕事に従事する機会が増えている。しかし、多数派は伝統的な生業に従事している。ディラング郡の Monpa の人々の生業の特徴が図2に示されている。標高1500mの水田作地帯、1800m~2500mにかけて広がる畑作地帯、3000m~4500mの牧畜地帯の標高差による生産物を介したネットワークによってお互いが支えられている。米とシコクピエやジャガイモ、トウモロコシあるいは米とチーズやバターとの交

換がナッツアンと呼ばれている標高差によって異なる村間の特定な家族の間柄の関係 (たとえば Brokpa と Unpa の家族) で物々交換されている。ナッツアンによる交易と社会関係のネットワークは、Unpa と Brokpa 間だけではなく、Unpa とさらにアッサム州内の村人との間にインド独立前には存在していたことが知られている。また Brokpa は現在でもブータンから結婚相手を探してきたり、ヤクを買い入れている。カメング・ヒマラヤの高所に住む人々は村を越えた地域的なネットワークを活用することで、高度差などによる各村の資源と環境の違いをネットワークで結び有効、安定的に利用し、外に開かれた生業ネットワーク社会をつくってきたと言えるだろう。